

地球温暖化による気候変動の影響は、すでに地球上の各地で深刻さを増しており、多くの人命が奪われ、生態系は取返しのつかない破壊の危機に向かっています。

将来世代をさらなる危険にさらさないために、私たちは今、「大量生産・大量消費・大量廃棄」からの脱却をはかるときです。そのためには、リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）の2Rに基づく商品やサービスの拡充とともに社会環境の変革が不可欠です。

ペットボトルをはじめとする使い捨て容器に入った飲料を消費するライフスタイルは、今日世界で最も典型的な大量使い捨て型消費と生産パターンです。だからこそ、私たちはそこからシフトするためのしくみづくりを提案し続けてきました。

街中の水飲み場や水筒に補充できる給水機、無料給水サービスを提供する店舗等の「給水スポット」を増やし、利用を広げることは、環境負荷を低減するだけでなく、人にやさしく、魅力的なまちづくりにもつながります。

2019年5月にキックオフした給水スポットを広げる様々主体による活動のプラットフォーム「Refill Japan」は、多くの市民、事業者、自治体等の賛同を得て、全国各地で活動の輪を広げています。

本日、ここ高松で第1回リフィルサミットに集った私たち Refill Japan のメンバーは、私たちの活動が、地域に、日本に、そして地球に、貢献できる多くの意義を再認識し、さらに広げていくための戦略を議論しました。

私たち地域のリフィル団体は、次の行動を起こすことを宣言します。

- 地域の幅広い市民や関係者に、給水スポットづくりへの参加を呼びかけます。
- 地域の水飲み場や協力店舗の現場を確認し、正確な給水スポット情報を収集、提供します。
- イベント会場の給水コーナーや、街中での試験的給水ステーション設置により、給水インフラの必要性、重要性を、多くの人々が実感する機会を創出します。
- 給水スポットがより多くの人に利用されるために、スマホ対応のマップやステッカーによる可視化と周知をはかります。

そして、日本社会、自治体、国に向けて、以下を提案します。

自治体は、

- ・公共施設に利用しやすい冷水機などを設置し、利用者を熱中症のリスクから守るとともに、質の高い水道水への信頼を高めるチャンスとすること
- ・屋外で人の多く集まる場所に使いやすく魅力的な水飲み場を設置することで、人にやさしく潤いのあるまちづくりを推進すること
- ・地域の事業者に無料給水サービスへの協力を呼びかけること
- ・公共施設の飲料自販機の削減、会議での飲料提供方法の見直し等の率先行動で市民や事業者の行動を牽引すること

国には、

- ・消費者がライフサイクル全体の環境負荷を考慮した飲料利用の選択ができるよう、資源使用量やエネルギー消費等の正しい情報を提供すること
- ・公共および民間のオフィスビル等を新築、改築する際には、誰もが利用できる給水インフラを設置することを推進するしくみを構築すること
- ・公共施設の飲料自販機の削減、会議での飲料提供方法の見直し等の率先行動で市民や事業者の行動を牽引すること

日本でオリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年を、「リフィル元年」とすべく、市民、事業者、自治体、国が、手を携えて、大きな一歩を踏み出しましょう。

2020 年 1 月 26 日

Refill サミット 2020 in 高松 参加団体一同

Refill いしかわ・金沢

Refill 東京

Refill 湘南

Refill 京都

Refill 生駒市

Refill 大阪

Refill 香川

Refill 福岡

Refill 熊本